

ハマの自然観察会「鳥の多い森、少ない森とは」

## 植生と鳥類の関係について

一ノ瀬友博（慶應義塾大学環境情報学部）

## 自己紹介

- ・東京大学農学部緑地学研究室出身
- ・学位は鳥類の保全生物学的研究
- ・2年間ミュンヘン工科大学へ留学
- ・9年間淡路島で教育研究（兵庫県立大学自然・環境科学研究所／淡路景観園芸学校）
- ・1年間マンチェスター大学で客員研究員
- ・4月より慶應義塾大学環境情報学部

## 私の研究テーマ

- ・都市域における生態的ネットワーク構築
- ・農村地域における生物多様性保全
- ・都市及び農村地域における景観の変遷
- ・中山間地域における戦略的再構築
- ・農村計画の視点からの広域計画

[http://homepage.mac.com/tomohiro\\_ichinose/](http://homepage.mac.com/tomohiro_ichinose/)

さて、今日の話は  
森や林と鳥の関係

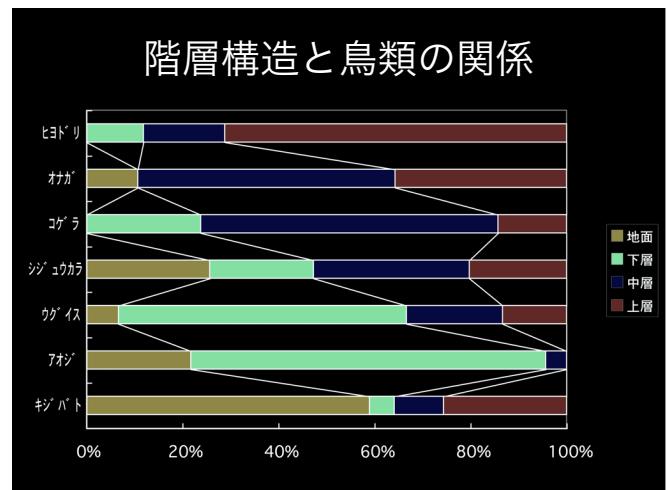
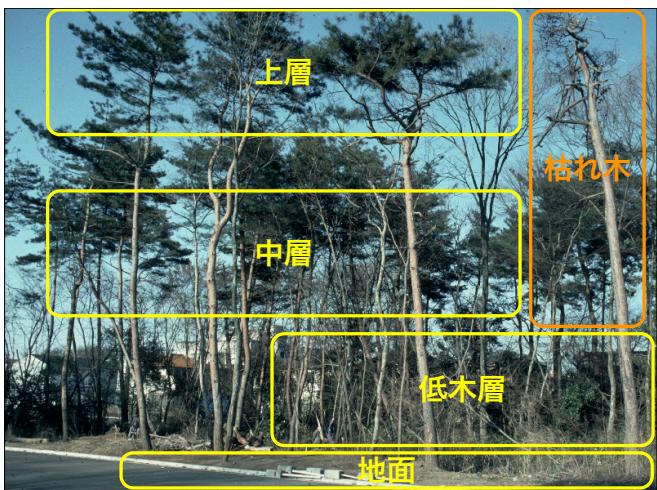
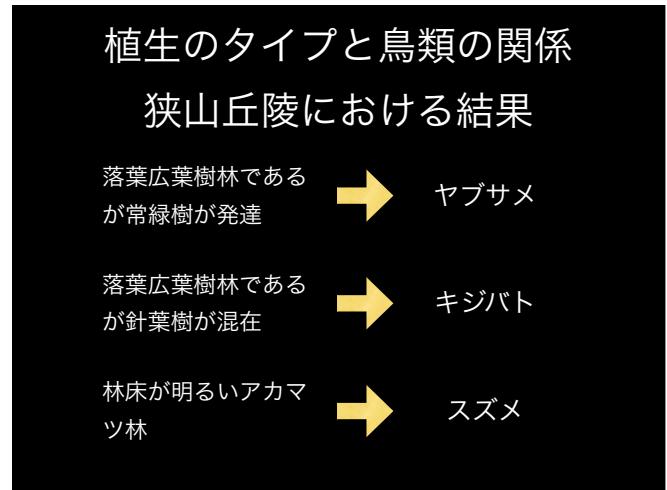
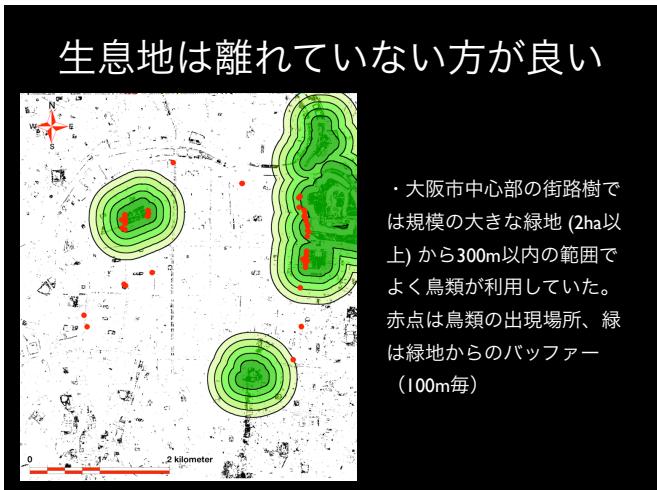
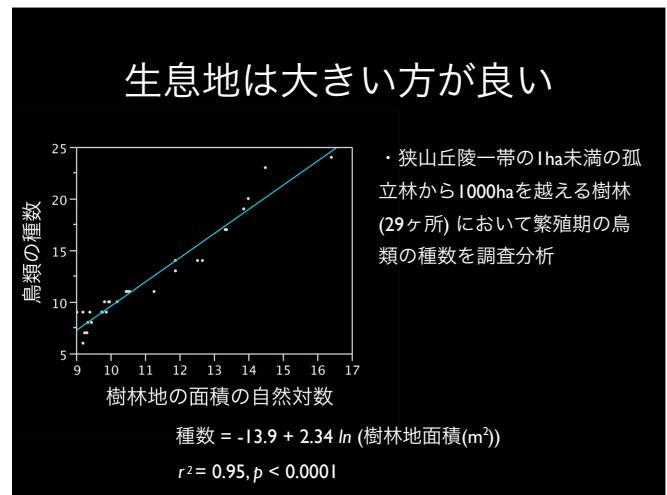
ところで、皆さんにとって  
**「いい感じ」**の森とは？

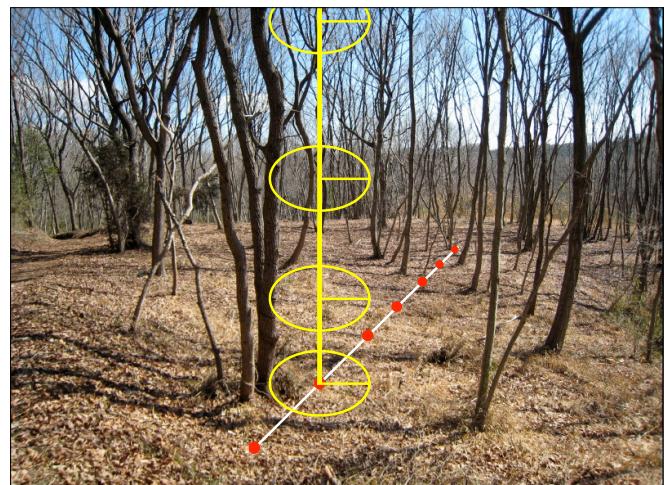
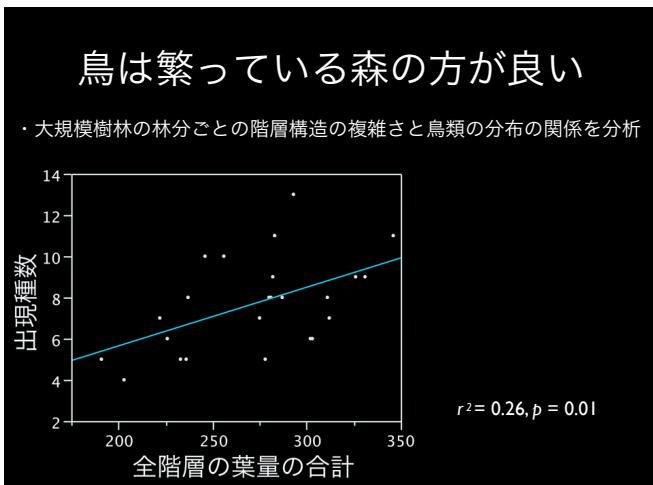




鳥にとって森の  
何が大事なのか？

鳥類の分布と環境要因の関係





## 鳥類の調査方法

### 鳥類調査の種類

- 目視による調査  
ラインセンサス、ポイントセンサス、テリトリーマッピング
- 捕獲による調査  
足環、テレメトリー
- 痕跡による調査  
糞採集、捕食跡採集、落鳥

### 訪問時期による区分

- 留鳥—渡りをせずに一地域で一生を過ごすもの
- 夏鳥—繁殖のために日本を訪れるもの
- 冬鳥—越冬のために日本を訪れるもの
- 旅鳥—特定の時期だけ日本に立ち寄るもの
- 漂鳥—日本国内で移動するもの
- 迷鳥—通常は見られないが偶然出現したもの

### いつ調べるか

- 繁殖期（3月から6月）  
留鳥・夏鳥にとって不可欠
- 越冬期（12月から2月）  
越冬地としての環境評価
- 移動期（10月から11月）  
主に干潟や湿地

### 何時に調べるか

- 鳥類は通常早朝と夕方に活発
- 繁殖期—日の出から3時間程度
- 越冬期—午前中
- 移動期—日中
- 雨天や強風は避ける
- （暗調査—夕方）

あとは後半で  
お話しします

## 調査法

- ・ ラインセンサス法  
事前に決めたルートに沿って調査
- ・ ポイントセンサス法  
事前に決めた点に立って調査
- ・ テリトリーマッピング法  
テリトリーの範囲を記載

## ラインセンサス法

- ・ 事前に決めたルートを時速1.5から2kmで歩きながら調査
- ・ 通常両側50mの範囲を記録（25mも）
- ・ 出現した種名と個体数を記録するとともに出現場所、行動などを記録
- ・ 通常時期あたり3回以上のセンサス
- ・ 歩く以外に車や船のセンサスも

## ラインセンサス法の利点と課題

- ・ 効率良く一定の範囲の鳥相を把握
- ・ 事前調査をあまり必要としない
- ・ 複数の環境を含むようなルートを設定すると鳥類と環境の関係が分からなくなる
- ・ 調査者が移動するため分布を攪乱の可能性  
鳴かない種は見つかりにくい

## ポイントセンサス法

- ・ 1地点の一定の時間とどまって調査  
時間については10分ぐらいから長時間まで
- ・ 半径25～50mの範囲に出現する種を記録
- ・ 種名や個体数に加え、鳥類の利用空間などを記録
- ・ 通常時期あたり3回以上のセンサス

## ポイントセンサス法の利点と課題

- ・ 特定の環境と鳥類の関係を調べるために  
は最適
- ・ 鳴き声を攪乱する可能性が小さい
- ・ 効率が悪い、数多く実施することが困難
- ・ 事前に慎重にポイントを設定する必要

## 今日の調査実習

- ・ 8つのグループに分かれ、それぞれ異なる林を担当
- ・ 鳴き声の調査手法はポイントセンサス法
- ・ 20分間に半径25m以内に出現する種を記載
- ・ 林の植生の断面図をA3用紙にスケッチ
- ・ 鳴き声の調査結果と合わせ、3分間でプレゼン